

No.44

鐘

一橋大学附属図書館報



『一橋新聞』記者図書館取材記
新入生のための図書館ガイド
研究・学習支援セミナー

THE HITOTSUBASHI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

2003.4

「図書館をななめから読む」 —— 『一橋新聞』記者図書館取材記 ——

楠谷 遼

昨秋発行の一橋新聞1098号(2002年10月8日号)に、「図書館をななめから読む」と「図書館ちょっといいはなし」と題された記事が掲載されました。
普段利用者の目に触れることのない、閑

覧室以外での図書館業務も熱心に取材され、よく纏められた記事となりましたが、残念なことに紙面の都合により、当初より短縮した形で掲載されています。
特に学生の目から見た紹介記事として、

多くの図書館利用者に見ていただきたく考えておりましたところ、このたび、一橋新聞部のご厚意により、短縮前の記事に一部加筆のうえ寄稿していただけることになりました。
〔『鐘』編集部〕

朝日新聞社からだされている全国大学ランキング——その図書館総合部門において一橋大学附属図書館は堂々の1位に輝いた。(2003年度版)これだけ世間的に評価されている図書館だが当のわれわれ学生はどれほど図書館を知っているのだろうか。普段は気づかない図書館の裏の部分を探ってみた。

貴重図書の保管

数多くの貴重図書

人類の歴史を振り返ったときいわゆる図書館の果たしてきた役割は実に大きい。四大河文明発展要因のひとつに文字の存在があるがそれは文字が人間の思想、アイデアを後世の人に伝えることができたことによる。この後文字の集合体である図書が生まれ、さらにそれを蓄える存在として図書館が生まれてきた。これにより多くの人先人の考えを共有することができるようになり更なる思想とアイデアが再生産されていったのだ。具体例を挙げると古代エジプトの発展にはピブリオケ(図書館)の存在が大きいし、ルネサンスも図書館の存在が起爆剤になったとさえいわれている。

こうした先人の考えを後世に伝えるという気持ちは現在も受け継がれている。それが図書の保存だ。一橋大学図書館ではマルクスの資本論をはじめ日本の札差関係文書など古くから伝わってきた書物を貴重図書と

して保存している。保存すること自体の社会的貢献は世界規模に及ぶ。

一方、大学の発展という観点からも図書館の充実は大いなる要素だ。例えばソルボンヌ大学やハーバード大学がもともとは図書館から発達したものであることから分かる。日本の場合、さすがに図書館から大学ができたという例はないがそれでも身近に原本が充実していることは大学の研究教育水準の向上に大きく貢献する。原本から研究を進める社会科学にとってはなおさらである。そして一橋大学附属図書館では貴重図書の導入を常に続けている。

貴重書籍の保存の苦勞

一橋大学附属図書館で所蔵している貴重図書は何も本に限らず、写真や紙幣、机、本箱など種類は様々だ。中には各地の展覧会から貸し出しの要請が来るものもあるというからその貴重さがよくわかる。しかし中には百年以上前の資料も含まれる貴重図書、それを保存するためには相当細かい気遣いが要求される。ここではその細かい気遣いの様子をお伝えする。

* * * *

貴重資料室は本館4階にあって貴重書の他、本以外の古い道具なども収められている。その部屋の扉を開けても、そこは小さな部屋でいわゆる書架の類は見られない。実はここは「前室」とよばれるところで貴重

鐘

資料はさらに奥の扉を開けた向こう側に保管されているらしい。扉が二重になっているとはずいぶん嚴重だ。

横にある机の上には二、三冊の古そうな書物が置かれていた。これは展示するため外に出す資料なのだがすぐに外気にあてると傷むためこの「前室」で慣らしている最中なのだという。なんと細かい心配り。その横にはノートが置かれている。入る人は名前を書かなくてはいけないらしい。名前を書いた。さて入るかと思ったがまだダメ、靴を履き替えないといけないうのだ。全く本さまさまだ。

二つ目の扉を開けて中に入る。書架がいっぱいあっておのおのいかに時代を感じさせる本が並べられていた。室内はなんとなくヒヤッとした感じがする。室内の温度管理が行われているためだ。温度だけでなく湿度の管理も行われていて、温度は24度、湿度は55%ほどに保たれている。いくつかの書架の横に小さな機械がつけられているがこれが温湿度を感知するセンサーで、ここから伝えられる情報によって空調を調節するらしい。もっとも空調設備から出される風によって本が痛むこともあるから風が直接本にあたらなような配置にシなくてはならない。

壁をみても普通の壁とは少し違う様子。これはアルカリ吸収ボードといって壁のみならず天井にも張り巡らされているという。本箱に並べられている本もほとんどが中性紙でできた白いケースに入れられている。さらに直射日光が本を傷めるため窓はなく照明も無紫外線蛍光灯が使用されている。

入手した本を資料室に入れる前にもすべきことがある。まずは虫をとるための燻蒸、さらに塵や埃をとったり、時にはカビの除去もする必要がある。本が傷んでいる場合にはその修復作業をする必要があるがそれ専門の工房も置かれているというから本格的だ。

古い本を保存するための実に細かい心配り——これが貴重な本で一杯の一橋大学附属図書館を影で支えている。

100万冊の開架

開架というのは自由に本棚から本をとって読める状態のこと——いわゆる普段目に入る図書館の姿だ。逆に閉架というのは書庫に本が納められている状態でその場合係員に持ってきてもらう必要がある。一橋大学附属図書館では現在、所蔵160万冊のうち100万冊が開架にされている。もっとも近年の図書館改修までの開架はわずか30万冊。「100万冊の開架は誇りに思っているよ」と池間館長は話す。何といっても開架図書が多いと本を読むときの手間が全く違う。このメリッ

トははかり知れない。

卒業論文の保管

一橋大学附属図書館では卒業生の卒業論文もすべて製本されて保管される。これは他大学図書館ではない取り組みだ。もともと散乱して行方不明となりやすい卒論——これが図書館で一括して保存されるとなると卒業生から歴史に残るような人物が出たりした場合にその社会的貢献は莫大なものとなる。これらの卒論は学部生でも申請すれば閲覧可能だがコピーなどには本人の許可が必要だ。

図書館を支えた先輩達

一橋大学附属図書館をこれまで支えてきた人々のことも忘れるわけにはいかない。現在保管されている貴重図書は、大変な時代の中、本を守ろうと奮闘した人がいたからこそ、今ここに残っているといえる。関東大震災の時には福田徳三先生が自衛団を作って本を守り、太平洋戦争中には戦災を避けて山田雄三館長が信州に本を避難させた。こういった姿勢が現在の徹底した保存体制につながっている。

戦後になって、資金面から図書館を支えた先輩方の存在も忘れてはいけない。卒業生からの寄付が多いこと、それが一橋大学附属図書館の特徴のひとつでもある。100周年記念の際やギールケ文庫購入の際などには如水会が貢献。個人としてもOBの高本善四郎氏(昭9卒)が昨年、実に1億1千万円もの寄付を行った。また教官が自分なりに体系的に集めた書籍を図書館に残していったことも少なくない。これらはどれも後輩にいい環境で研究してほしいという気持ちから来たものだ。

図書館隆盛の影にあった先輩たちの協力の歴史——。これを知ってこそ現在の図書館のすばらしさをより実感できる。

図書館を使いこなす

図書館の保管する貴重図書を気軽に見られる場所がある。代表的なものが公開展示室。そしてもうひとつ、本館1階中央奥でも小規模ながら展示が行われている。

他にも無線LANカードの無料貸し出しが最近始まった。これにより自分のパソコンでインターネットが利用できる。^{*1}

* * * *

いくら設備が整っていても使わないと意味がない。そして、使うことが図書館を支えている人々への恩返

*1: 『鐘』編集部付記) 教務課, 附属図書館, 情報処理センター合同の「オープンアクセスフロア運用実験」の一環としてサービスを行っています。現在は図書館のほか第一講義棟内にもアクセスポイント(有線)が設けられています。運用実験の詳細については、情報処理センターの『センターニュース』(<http://www.cc.hit-u.ac.jp/cn/>) 64(2002年10月)の記事をご覧ください。

しになる。読書の秋*2——この時期にもっともっと図書館に足を向けてみてはいかが。

参考資料:「大学幕の内」(清水健宇)(ASAHI.COM)

おまけ「知られざる図書館のあの部屋...」

閉架書庫

160万冊の本を所蔵する図書館だがすべての本が開架(自由に本棚からとって読めること)にされているというわけではない。約60万冊は本館奥にある書庫に収められている。その書庫だが学部生は立ち入り禁止。しかし読みたい本があるときには係員に請求すればもって来てくれる。収められているのは準貴重書や個人コレクションなど学習用というよりは研究用の書籍が中心だ。また卒業生の卒業論文も製本されてこちらに保管されている。

* * * *

図書館入り口から直進していくと書庫の入り口に突き当たる。入り口の上に掲げられているのは昔の一橋大図書館の扁額、横にあるのは磁気カードの読み取り機だ。院生や教官はここにカードを通してから中に入る。係の方の後ろについて我々も中に入った。入ったの第一印象はなんととっても古いということ。平成12年に完成した本館を普段見ているだけに昭和58年建造(第三書庫)とはいっても書庫の古さをいっそう感じてしまう。

中は薄暗く背の高い本箱がいっぱい並んでいる。卒業論文のコーナーもあった。なるほど確かに黒い表紙もつ

けられしっかりと製本されている。館長さんが「製本されて残るということになれば書きがいてもでてるだろう」と話していたが確かにそんな感じもする。

エレベーターで4階上がりふと天井を見ると一部に青いビニールシートがつけられていた。雨漏りがしているためだという。そんな、準貴重書も保管している書庫なのにこんなことで大丈夫なの?と心配になった。聞いてみると図書館はお金がいくらでもかかるのでなかなかこちらにお金をまわすことができないとのこと。なかなか大変なようだ。

時計台

図書館のシンボルといえばなんと言ってもあの歴史を感じさせる風貌の時計台棟と言えるだろう。時計台棟は兼松講堂や西本館と共に昭和5年に建てられた大学の主要な建物のひとつだ。つながっていた旧本館は建て替えられたが時計台棟のほうは未だに健在。2階閲覧室にある肖像画や銅像も建造当時からのものもあるという。同じく閲覧室にあるステンドグラスも建造当時からのあるという貴重品だ。建造

当時というと実に70年以上前——現在の機械で作られるステンドグラスとはまた違った趣を感じられるかもしれない。

* * * *

時計台棟の屋上からは塔のように時計台がのびている。時計台は現在、基本的に開放されておらず登る人はほとんどいない。階段を登り一旦屋上に出た後時計台に入る。中はてっぺんまで吹き抜けになっていて階段が壁に沿うかたちで上まで続いている。内部はかなりがらんとした様子。床にはほとんど何も置かれていない。塔の中は時計の歯車などでいっぱいというイメージもあったがさすがに今時そんなわけがない。電気式のちょっとした機械が時計の裏側にあたる壁に取り付けられていた。

階段で上まで上るとそこはちょっとした展望台のようになっていて壁4面に張り巡らされた窓から大学の全景を見渡すことができる。学内でもこの高さに並ぶ建物というせいぜい事務棟くらい。それだけになかなかよい眺めだ。もっとも窓ガラスが汚れクモの巣が張っていたのは訪れる人が少ない証拠、仕方がないところだ。

(くすたに りょう 一橋新聞部)

新入生のための図書館ガイド

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。希望に満ち溢れた学生生活をスタートされる皆さんを一橋大学附属図書館は歓迎いたします。また、皆さんの学習・研究を支える資料やスタッフを揃えてお待ちしております。「利用案内」やホームページをご覧になって、さっそくお訪ねください。

「勉強するなら図書館へ行こう!」

「世界の情報の海に乗り出そう!」

図書館はどこ?

西キャンパスのほぼ中央、時計台棟1階が図書館本館の入口です。そのまま奥に進むとエントランスが見えてきます。本館の奥には書庫や雑誌があり160万冊の図書や14,000タイトルの雑誌が所蔵されています。蔵書のうち100万冊は皆さんが直接手に触れることができる開架図書です。

【図書館入口】本館の奥に雑誌棟が続いています。



*2: 本稿の原文は、一橋新聞2002年10月8日号の特集『秋味読書』に掲載予定として執筆されたものです。

鐘

開館時間・開館日

授業期の平日は9時から22時まで、土・日・祝日は16時30分まで開館しています。ただし、休業期には17時までとなります。年間300日以上開館していますが、年末年始や蔵書整理日などの休館日も設けています。開館時間とともに図書館カレンダー等でご確認ください。

入館する時

入館するには学生証^{*3}が必要です。学生証に印刷してあるバーコードを入館システムの赤いセンサーに読み取らせて、ゲートを開けてください。荷物もそのまま持って入れます。

退館する時

貸出手続は済んでいますか? 手続きしないで図書館資料を持ち出すと、出口で警報音が鳴ってゲートがロックされ、通過できなくなります。なお、携帯電話、金属類にも反応することがありますので、鳴ってしまった時には手荷物のチェックにご協力ください。



【時計台棟】

西キャンパス全体を俯瞰する時計台棟。2階に大閲覧室があります。

本を借りる

学生証と借りたい図書を貸出カウンターへお出しください。カウンター右脇に設置してある自動貸出装置を使って、自分で借り出すこともできます。

貸出冊数・貸出期間: 所属によって異なります。ちなみに学部学生は最大8冊、図書は2週間、製本雑誌は1週間借りることができます。銀のシールが貼られている学習用図書の貸出は2週間です。貸出の予約: 読みたい図書が貸出されている時は予約ができます。

貸出の更新: 続けて借りたい図書は、返却期限内にお持ちになれば、予約がない時に限り、貸出期間分を延長して借りることができます。

本を返す

返却する図書を持ってカウンターへお出ください。閉館時には時計台棟入口に返却ポストがありますので、こちらをご利用ください。

資料を探す

オンライン目録で検索する

<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/opac/opac.index.html>

HERMES^{*4}を使って館内に所蔵する図書・雑誌を調べることができます。タイトルがわからなくても大丈夫! キーワードから検索することもできます。必要な資料がどこにあるか一目でわかります。学内LAN、インターネットを通じて自宅からの利用もできます。

カード目録を調べる

1990年以前の資料がHERMESで見つからなかった時は、本館1階参考図書コーナー脇にあるカード目録を検索してください。

資料を取り寄せる

本学にない資料は相互利用カウンターを通してコピー(学外の文献複写)や現物を取り寄せることができます。また、レファレンス・カウンターでは他の図書館を訪問利用できる紹介状を発行します。

コピーする

館内の資料をコピーする時は本館・雑誌棟1階にあるコピー機をご利用ください。著作権法の範囲内で館内の資料をコピーすることができます。

ホームページ

http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/index_Ja.html

図書館のホームページにはここで紹介するさまざまな情報が満載されています。資料の貸出情報を調べたり、学内からデータベースや電子ジャーナルの利用ができます。文献複写や現物貸借の依頼、購入希望図書の申し込みの受付もしています。

情報検索コーナー

http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/sankou/DB_index.html

オンラインデータベース、CD-ROMで学术论文や新聞記事を検索することができます。学内にない資料や電子ジャーナル・電子資料を検索することも可能です。平日は22時、土・日・祝日は16時30分まで利用できます。情報検索のハウツーをこのコーナーでぜひ磨いてください。

*3: 新入生の学生証は「図書館利用証」としてそのまま利用できます。大学院生は別に利用証を発行しますので、カウンターで学生証を提出し、手続きをしてください。

*4: HERMESは一橋大学附属図書館オンライン目録の愛称です。検索用の端末は館内の各階に設置してあります。



【情報検索
コーナー】
31台の情報検索
端末を備え、
データベース
検索や電子媒
体資料の閲覧
ができます。

電子ジャーナル

http://www/lib.hit-u.ac.jp/service/sankou/EJ_index.html

電子ジャーナルは雑誌の内容を電子情報として、いち早く提供してくれます。全文あるいは目次・抄録で冊子体より迅速に情報が提供され、関係論文の参照も容易です。

電子資料

<http://hdl.lib.hit-u.ac.jp/cgi-bin/retrieve/accout.cgi?start>

HDA(一橋デジタルアーカイブ)は全学的な電子媒体資料・検索窓口を提供しています。「戦前期アジア諸国写真コレクション」などのコンテンツや「四大学連合目録所在情報横断検索」等が利用できます。

オープンアクセスサービス

<http://www/lib/hit-uac.jp/eturan/020531openaccess.html>

自分のノート型パソコンを学内LANにつなぎ、インターネットに接続することができます。利用できるフロアは本館2階・3階のキャレル、雑誌棟は2階閲覧

席と4階・5階のキャレルです。無線LANカードや有線ケーブルの貸出をメイン・カウンターで行っています。詳細は情報処理センターへ。

グループ学習室

3人以上が共同で研究・会議などの目的で使用できるグループ向けの学習室を用意しています。メイン・カウンターで学習室の貸出や予約をお申し込みください。

大閲覧室

本館2階から入れます。昭和5年建築のステンドグラスが美しい自習・閲覧スペースで、300席以上の閲覧席が用意されています。



【大閲覧室】
一橋大学や図書館に縁のある人々の肖像画や胸像が展示されています。

東学習図書室

東キャンパスには東学習図書室があり、視聴覚資料や本館より数は少ないですが参考図書・雑誌・新聞等が利用できます。

さて、いかがでしたでしょうか? 「これは使える!」と思った方も思わない方も、とにかく図書館のゲートを通ってみることをお勧めします。資料が見つからない時やわからないことはカウンターに遠慮なくご相談ください。最後に利用者の皆さんにお願い! 図書館には快適にご利用いただけるよう守っていただきたいルールがあります。返却期限やコピーの仕方、飲食・喫煙・携帯電話の禁止等です。
「マナーを守って快適図書館ライフ」

(附属図書館情報サービス課閲覧係)

研究・学習支援セミナー

図書館の使い方・資料の探し方ガイダンスのお知らせ

図書館では、図書館をより効果的に利用する方法をお伝えする講習会「図書館の使い方・資料の探し方ガイダンス」を実施します。

次の6つのメニューを用意しましたが、(1)、(2)は新入生必須、(3)、(4)、(5)、(6)は学部3~4年生および大学院生必須です(もちろんそれ以外の方の受講も

歓迎します)。できるだけこの時期に受講されることをお勧めします。

本学の図書館を初めて使う新入生が(3)、(4)、(5)、(6)を受講希望する場合は、必ず(1)、(2)を受講しておいてください。

鐘

(1) 図書館の使い方 (館内ツアー)

日時: 4月7~25日 および 5月6~9日の月、火、木、金曜日 10:40, 13:10, 14:40, 16:00から (各30分程度)
内容: 図書の貸出等図書館の利用方法, 資料の配置場所案内, オンライン目録(HERMES), カード目録の紹介

(2) 資料の探し方 I

日時: 4月7~25日 および 5月6~9日の月、火、木、金曜日 11:10, 15:10から (各30分程度)
内容: 本学附属図書館蔵書のオンライン目録(HERMES)による検索実習

(3) 資料の探し方 II

日時: 4月9日(水), 16日(水) および 5月7日(水), 14日(水) 13:10から (40分程度)
内容: 他大学図書館の図書・雑誌について: 探し方の手順&検索実習
(NACSIS(国立情報学研究所), 国立国会図書館等)

(4) 雑誌論文, 新聞記事の探し方 I (和文編)

日時: 4月9日(水), 16日(水) および 5月7日(水), 14日(水) 15:00から (40分程度)
内容: 国内の雑誌論文および新聞・新聞記事について: 探し方の手順& データベース検索の実習
(雑誌記事索引, 日経テレコン21等)

(5) 雑誌論文, 新聞記事の探し方 II (欧文編)

日時: 4月23日(水) および 5月1日(木), 21日(水), 28日(水) 13:10から (50分程度)
内容: 外国の雑誌論文および新聞・新聞記事について: 探し方の手順& データベース検索実習
(Web Spirs, Academic Universe等)

(6) 電子ジャーナルの使い方

日時: 4月23日(水) および 5月1日(木), 21日(水), 28日(水) 15:10から (40分程度)
内容: Science Direct, JSTOR等の検索実習

【定員】 各回10名

【場所】 図書館研修セミナールーム
(時計台棟正面玄関から右手2つ目の部屋)

【申込方法】 本館1階レファレンスカウンターで申込用紙に記入してください。電子メールでも予約できます。また, 定員に余裕がある場合は, 予約なしでも参加できます。

【申込問合先】 参考調査係(内線8238, 8239)

E-mail: sankou@www.lib.hit-u.ac.jp

なお, 5人以上のグループでの申込の場合は, 上記以外の時間, あるいは上記メニューの組み合わせ等の講習にも応じます。レファレンスカウンターでご相談下さい。

(附属図書館情報サービス課参考調査係)

本学関係資料の寄贈

2002(平成14)年12月, 縫田清二元横浜国立大学教授のご遺族から, 縫田先生の本学在籍中(1946~1952年)の資料「東京商科大学関係記録」「特別研究生関係記録」「大塚ゼミナール回覧誌」等, 学園史および学

問史上貴重な資料の寄贈がありました。

なお, 『鐘』No.43特集記事で紹介しましたとおり, 図書館では「本学研究者直筆資料アーカイブズ」構築事業を進めております。一橋大学史資料の収集, 充実のため, 各方面の一層のご協力をお願いいたします。

平成14年度高本善四郎図書奨学基金 および図書助成金について

高本善四郎図書奨学基金による平成14(2002)年度事業は、本学教官の手稿類の保存事業にあてられ、三浦新七、上田貞次郎、中村進午各先生の資料について電子化および中性紙保存ケースによる原物保存を、米谷隆三、都留重人先生資料については現物保存の手当を施しました。

また、高本善四郎図書助成金については、2002(平成14)年11月27日附属図書館委員会上の第1回選定において、学部生および院生向に、名著・古典類約400冊が選定されました。

海外文献複写サービスについて

国立情報学研究所NACSIS-ILLとOCLC/ILL(米国Online Computer Library Center, Inc.)のシステム間リンクによるグローバルILL(国際文献複写)^{*5}サービスの運用が、2002(平成14)年4月から開始されました。

このサービスは、国立大学図書館協議会が国立情報学研究所(NII)、国公立大学図書館協力委員会、米国研究図書館協会(ARL)及び北米日本研究資料調整協議会(NCC)等と協力して進めているGIF(Global ILL Framework)プロジェクト^{*6}によるものです。

2003(平成15)年2月現在、米国側参加館は31機関32図書館^{*7}あり、参加館の目録所在検索(OPAC)で所蔵が確認されれば申込みができます。複写料金、送料等は申込者の負担で、私費のみ受付けます。

公開展示事業

【江戸東京博物館で当館所蔵資料を展示】

2003(平成15)年1月5日～2月23日に開催された、江戸東京博物館開館10周年記念企画展「大江戸八百八町展」^{*8}に、一橋大学附属図書館所蔵の下記貴重書資料等が貸出、展示されました。

- (1) 長谷川木綿店古帳
大伝馬町組太物問屋(仲間)帳簿 指引帳……1冊
- (2) 札差会所文書箱……………1点
- (3) 江戸町中世渡集……………1帙2冊
- (4) 魚問屋記録……………1冊

【企画展示「武家社会と江戸・大坂の経済」】

平成14年度企画展示「武家社会と江戸・大坂の経済-幸田成友とその史料-」を、2002年11月1日～15

日に開催し、本学元教授である幸田成友^{*9}先生の旧蔵書の中から、武鑑を中心としたコレクションなどを展示しました。

今回からの試みとして、開催時期を一橋祭および国立市民祭期間(11月2～4日)に合わせたところ、この3日間だけで516名、全期間で1,190名の入場者がありました。

また、期間中の11月8日には、池享教授(経済学研究科)による講演会「幸田成友の人と学問」を開催し、約40名の聴講がありました。

展示内容等につきましては、当館webページ^{*10}にて紹介していますので、そちらもご覧ください。

【常設展示「一橋大学への歩み」】

明治8年の創設から新制一橋大学成立までの本学の歴史を辿る展示を、2003(平成15)年1月から行っています。

展示内容は、2002(平成14)年1月から8月にかけて、明治期、大正期、昭和戦前期の3回に分けて行った展示を集約、再構成したものです。

【塩野谷祐一名誉教授の著作展示】

2003(平成15)年1～3月、「一橋大学附属図書館所蔵コレクション紹介」の第2回として、平成14(2002)年度の文化功労者に選ばれた本学元学長、塩野谷祐一名誉教授の著書を展示しました。

塩野谷名誉教授は、多年にわたり、経済学の倫理的側面に関する理論的・学説史的研究で独創的な業績を上げ、経済学と倫理学の整合化を模索した研究成果は、日本の社会科学のひとつの到達点とされています。

【館内展示】

図書館本館1階ロビーにおいて、図書館の所蔵資料を紹介する小展示を行っています。

現在は、世界的に有名な児童書古典コレクションである「オズボーン・コレクション」の複製本をシリーズ展示中です。

本学教官著訳寄贈書一覧 (平成14年9月～平成15年2月)

- 鵜飼 哲 : 恋する虜(訳)
 梶田 孝道: 国際社会(全7巻)(編)
 田中 克彦: 法廷にたつ言語
 寺西 重郎: 日本の経済システム
 土肥 一史: 黒正巖著作集(全7巻)(編)
 山内 敏弘: 有事法制を検証する(編)

*5: URL: <http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/INFO/ILL/ISO/index.html>

*6: URL: <http://www.libra.titech.ac.jp/GIF/>

*7: URL: <http://www.libra.titech.ac.jp/GIF/gif-JJAP.html>

*8: URL: http://www.edo-tokyo-museum.or.jp/2002/ki_1-15.htm

*9: こうだ しげとも(1873～1954)。東京商科大学教授、慶応義塾大学教授、同名誉教授。

*10: URL: http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/tenji/k14/tenjihin_list.html

LIBRARY CALENDAR

- 開館時間の詳細は、<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/calendar-j/> でご覧になれます。
- 携帯電話からでも休館日を確認できます。(iモード) <http://www.lib.hit-u.ac.jp/i/> (J-sky) <http://www.lib.hit-u.ac.jp/j/>
- 臨時休館等変更の場合は掲示でお知らせいたします。

本館	メインカウンター	月～金曜日	書庫の資料の取り出し 9:00-12:00 ; 13:00-16:45 カウンター業務(貸出・返却等) 9:00-22:00 書庫への入庫(職員・院生) 9:00-16:30 (16:45閉庫)
		土・日曜日・祝日	カウンター業務(書庫は利用不可) 9:30-16:30
	レファレンスカウンター	月～金曜日	9:00-12:00 ; 13:00-17:00
	文献複写カウンター	月～金曜日	9:00-12:00 ; 13:00-14:30
	大閲覧室	月～金曜日	9:00-21:00
雑誌棟		月～金曜日	9:00-21:30
		土・日曜日・祝日	9:30-16:00
東学習図書室		月～金曜日	9:30-16:45

- (例)
- | | | |
|----------|-------|---|
| | | 開館日: 特に記入がない場合は上記の時間開館します。 |
| | | 休館日 |
| 17:00 閉館 | | 東学習図書室を除く全館で17:00に閉館します。 |
| 16:30 閉館 | | 土・日曜、祝日は図書館本館(大閲覧室除く)、雑誌棟のみの開館になります(書庫は利用不可)。 |

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	火 17:00 閉館	木	日 16:30 閉館	火	金 17:00 閉館	月
2	水 "	金	月	水	土	火 蔵書点検のため休館
3	木 "	土 16:30 閉館	火	木	日	水
4	金 "	日 "	水	金	月 17:00 閉館	木
5	土 16:30 閉館	月 "	木	土 16:30 閉館	火 "	金
6	日 "	火	金	日 "	水 "	土
7	月 入学式(東学習室休)	水	土 16:30 閉館	月	木 "	日
8	火	木	日 "	火	金 "	月
9	水	金	月	水	土	火
10	木	土 16:30 閉館	火	木	日	水
11	金	日 "	水	金	月 17:00 閉館	木
12	土 16:30 閉館	月	木	土 16:30 閉館	火 "	金 (予定)
13	日 "	火	金	日 "	水 "	土
14	月	水	土 16:30 閉館	月	木 "	日
15	火	木	日 "	火	金 "	月
16	水	金	月	水	土	火 17:00 閉館
17	木	土 16:30 閉館	火	木	日	水 "
18	金	日 "	水	金	月 17:00 閉館	木 "・東学習室休
19	土 16:30 閉館	月	木	土 16:30 閉館	火 "	金 "・東学習室休
20	日 "	火	金	日 "	水 "	土
21	月	水	土 16:30 閉館	月	木 "	日
22	火	木	日 "	火	金 "	月 17:00 閉館
23	水 東学習室のみ開室	金	月	水	土	火
24	木	土 16:30 閉館	火	木	日	水 東学習室のみ開室
25	金	日 "	水 東学習室のみ開室	金	月 17:00 閉館	木
26	土 16:30 閉館	月	木	土 16:30 閉館	火 "	金
27	日 "	火	金	日 "	水 東学習室のみ開室	土 16:30 閉館
28	月	水 東学習室のみ開室	土 16:30 閉館	月	木 17:00 閉館	日 "
29	火 16:30 閉館	木	日 "	火	金 "	月
30	水	金	月	水	土	火
31		土 16:30 閉館		木	日	